

防災分野でもDX化が本格始動

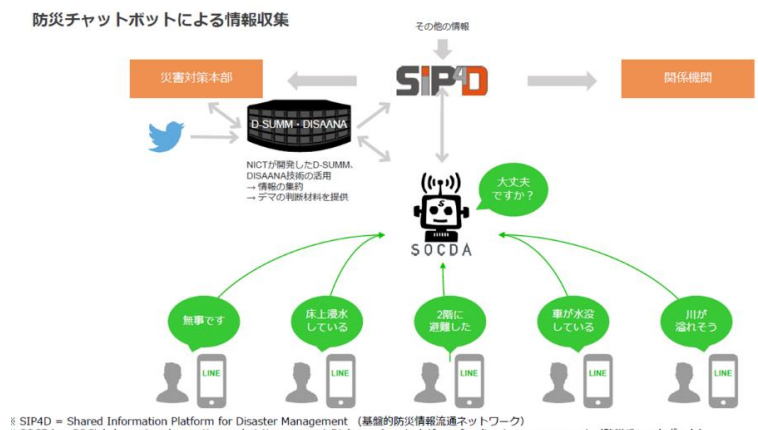
◆災害対応のDX化は急務

内閣府は、2020年12月、防災分野へのデジタル技術の活用促進をはかる「デジタル・防災技術ワーキンググループ（WG）」を設置した。WGは目指すべき未来像を検討する「未来構想チーム」と、防災関連システムの使い勝手や機能向上、防災におけるデジタル化の問題点などを検討する「社会実装チーム」からなる。

21年1月に開催された未来構想チーム第2回会合では、防災科学技術研究所の臼田裕一郎総合防災情報センター長が、人口減少に伴う災害対応能力の低下は深刻で、防災のデジタルトランスフォーメーション（DX）化が急務、と指摘した。同研究所は、組織を超えて防災情報を共有できる基盤的防災情報流通ネットワーク「SIP4D」の開発を進めている。また熊本県代表者からは、16年4月の熊本地震と20年7月の豪雨という2度にわたる災害経験から、通信ネットワーク手段を多重化し、防災通信機能の強靱化を図る必要性が訴えられた。

◆SNS上の災害情報をAIで自動分析する「防災チャットボット」

社会実装チームの初会合では、国内で最も多くの人に使われているSNSのLINEから、防災チャットボット「SOCDA」の概要説明があった。「SOCDA」は、災害発生時にLINEを通じて住民に「周りでどんな被害が起きているか」などを問いかける。住民はチャットボットとやりとりしながら被災地点の画像や位置情報を提供するという仕組みで、すでに実証実験が進んでいる。



※ SIP4D = Shared Information Platform for Disaster Management (基盤的防災情報流通ネットワーク)
 ※ SOCDA = SOCal-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management (防災チャットボット)

出所：内閣府デジタル・防災技術WG「社会実装チーム」第1回会合資料より

迅速で正確な被災状況の把握は、救助・救援の優先順位を決める上でも重要で、DX推進が加速しているいま、防災でもDX化の進展が期待される。 【秋元真理子】